

II 目標とする将来都市像

1 まちづくりの目標

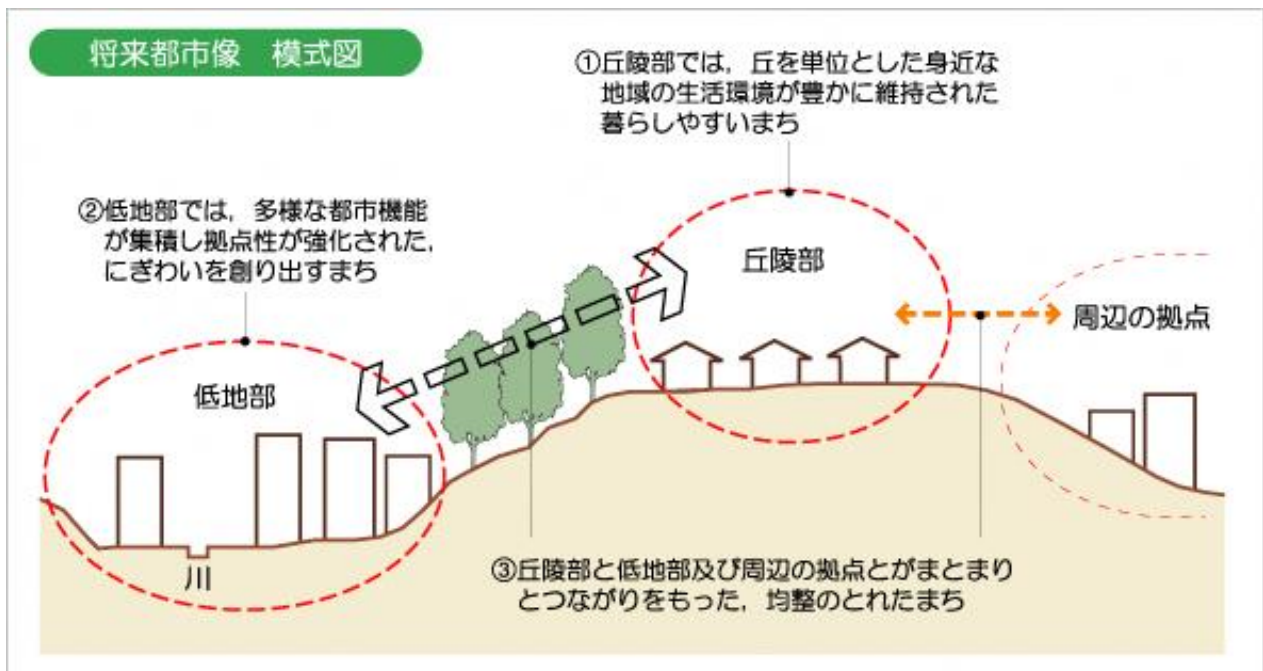
保土ヶ谷区は、商業・業務や行政サービスなどの多様な都市機能が集積している低地部と、住宅地としての性格が強い丘陵部とが補完し合って成り立っていることから、まちづくりの目標を、

市の中心部に近い立地を生かし、
自然や歴史などの魅力を大切にしたい
いつまでも住み続けたいまち

とします。

この目標をまちの成り立ちに対応させて、さらに以下の目標を立てました。

- ①丘陵部では、丘を単位とした身近な地域の生活環境が豊かに維持された暮らしやすいまち
- ②低地部では、多様な都市機能が集積し拠点性が強化された、にぎわいを創り出すまち
- ③丘陵部と低地部及び周辺の拠点とがまとまりとつながりをもった、均整のとれたまち
- ④保土ヶ谷のもつ魅力が再認識され、区民によって保全・育成されるまち
- ⑤災害に強く、防犯性の高い、区民が安全・安心に暮らせるまち



2 将来のまちの構成

「まちづくりの目標」の実現に向けて、将来のまちの基本となる構成を次のように設定します。

(1) 市街地の構成

市街地を丘陵部と低地部に分け、それぞれの成り立ちや現況を踏まえた暮らしの環境整備を目指します。

丘陵部は良好な住宅地とし、低層住宅地あるいは中高層住宅地を中心とする住環境の維持・向上を図ります。

低地部は複合的な市街地とし、様々な都市機能の集積を図ります。

区内の駅周辺を区民の公共的な空間として利用できるよう、機能の向上を図ります。

星川・天王町・保土ヶ谷駅周辺を区の中心部（区心部）として位置づけ、業務、商業、文化、交流、行政機能等が複合した、つながりのある一体的なまちとします。

上星川・和田町駅周辺は、それぞれ日常的な買物や生活サービス、交流機能をもった身近な生活拠点とします。

西谷駅周辺は、神奈川東部方面線の開業に伴い、東京都心方面への分岐駅として駅及び駅周辺の交通基盤の強化を図るとともに、都市機能の集積を図ります。

丘陵部などの住宅地においては、地域の日常的な生活を支える商店街を中心とした近隣拠点の維持と利便性の向上を目指します。

北東部の峰沢方面は、神奈川東部方面線羽沢駅（仮称）周辺整備とあわせて、適切な都市機能を導入するなど将来構想について検討します。

(2) 交通の軸

道路は、国道1号線、国道16号線、環状2号線が骨格となり、区を縦横に通る自動車専用道路とあわせて、区内から広域への移動と、市域中央部での円滑な交通の流れを担っています。

鉄道は、JR横須賀線、相模鉄道本線、市営地下鉄、新たに開業する神奈川東部方面線により、東京都心部と結ばれ、さらに、横浜環状鉄道の整備によって、より選択性のある鉄道交通体系を生み出します。

(3) 水と緑と歴史のトライアングル

帷子川沿いの親しみのある水辺、旧東海道と今井川沿い、区西部の尾根筋に点在する緑を結んだほどがや緑の軸によって構成される3つの軸を、潤いとやすらぎを与える「水と緑と歴史のトライアングル」とし、区民のみでなく誰からも親しまれる魅力ある空間を形成します。

将来のまちの構成図

